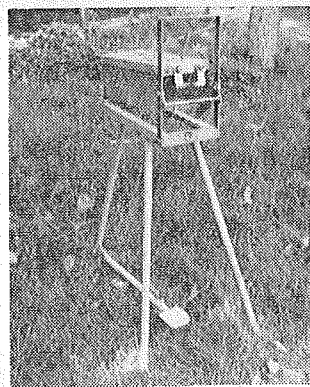


「一番よい断嘴方法」

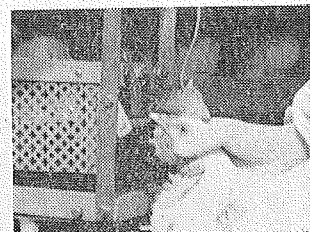
(鶏のカニバリズムの防止のために)

岡山県養鶏試験場 研究員

岩本敏雄



断嘴機



断嘴の要領

は、必然的にカニバリズムが発生すると考える必要があります。

二 断嘴の効果

カニバリズム防止の目的で鶏舎内に青菜を吊したり、被害鶏に忌避剤を塗ったり、あるいはとくに悪癖の強い鶏を除去したりする方法が従来からとられてきたが、多羽数飼育になると甚だしく労力を要し、その割合には効果はあがりません。この対策としてもっとも効果的なのはやはり断嘴といえます。

断嘴の効果はカニバリズムによる鶏雛の損耗防止の他、次の効果があげられます。

- ① 飼料の浪費(とくに餌こぼれ)の防止
- ② 神経過敏や騒音が防止され、鶏がおとなしくなる
- ③ 破卵の防止
- ④ 管理者の集卵時の苦痛(つかれ痛み)が減る

三 断嘴の方法

(1) 断嘴機(デイビーカー)

② 密飼になりしかも換気が不足の場合
③ 光線が過剰で鶏舎内、育雛舎内が明る過ぎる場合
④ その他鶏の素質にもよるといわれていますが、これらの原因については、極力これを排除して、鶏本来の生活に相応した条件を整えてやるように努力しなければなりません。しかし、そのすべてを満すことは困難といえます。とくに大群平飼飼育やケージの複飼管理で、しかも緑餌無給与という条件で

ニバリズムの原因と対策、とくに断嘴を中心にして述べてみたいと思います。

一 カニバリズムの原因

カニバリズムの原因として考えられることは次の事項があげられます。
① 飼料中の栄養が不均衝でとくにセロイ質の不足、無機物、ビタミンの不足など

産卵鶏や雛の管理様式が群飼方法の場合、カニバリズム(俗称尻つき)の発生をいかにして防止するかということには、絶えず気をつかうのが養鶏家の方々の現状です。

養鶏技術が進歩した現在では、以前から比べると相当に密飼をおこない、最近では大群の平飼方式やケージ飼育では、一羽あたりの施設費の節減と省力管理の目的で複飼管理がおこなわれるようになり、カニバリズム防止は養鶏管理上重要な問題となってきました。本稿では、カニバリズムの発生は、飼付から早いもので一〇〜一四日令でみられますが、普通では三週令以降からが多いようです。断嘴する時期は事故雛(カニバリズ

(2) 断嘴の時期

ムによる)がでないうち、おそくとも発生をみたら直ちにおこなう必要があります。

電熱で切断刃を加熱し、嘴を切断刃の受棒の上のせ、加熱された刃で切断します。切断と同時に切口を焼灼して止血する構造のものが多く、刃の切れ味のよく、刃と受棒が密着するのがよろしい。

断嘴の時期による注意事項は次のとおりです。
① 初生時におこなうのは容易に雛を捕えられる便がありますが、上嘴を以て上切断しないと一〇週令頃までに再び伸びて切り直しが必要となります。また切り過ぎると発育に悪影響があります。
② 四〜六週令では切除する長さが一定しく、再度の断嘴が必要なが多いようです。
③ 八〜一〇週令では作業的に一番おこないやすく、切り直しの必要がなく一般的です。
④ 産卵中に実施するのは、鶏の状態がよく、環境条件のよい場合は産卵開始後におこなっても影響が割合少なく、表一に示すような実験データもありません。

表1 産卵鶏に対する断嘴の影響 (米倉氏)

月 日	薄 飼 区 (3.3m ² 当たり 10羽)			厚 飼 区 (3.3m ² 当たり 20羽)		
	羽 数	産 卵 率 (%)	摘 要	羽 数	産 卵 率 (%)	摘 要
3. 3	135	75.6		264	65.1	
4	"	86.7		261	76.4	
5	"	86.7		260	73.4	断 嘴
6	"	81.5	断 嘴	"	73.4	
7	"	83.7		259	66.4	
8	"	82.0		"	71.0	
9	"	83.7		"	72.5	
10	"	83.0		"	66.7	
11	"	77.0		258	76.7	
12	"	62.2		"	66.6	

(注) 両区とも1室面積約50m²、鶏種は1代雑種、上嘴のみ1/3断嘴

図1 断嘴後の摂取量 (岡崎種畜牧場)

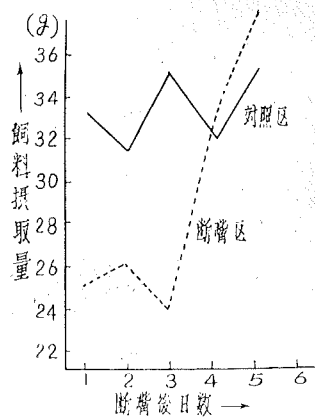
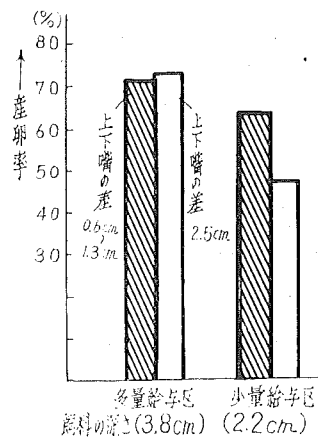


図2 両嘴の長さの差が産卵率に及ぼす影響 (ストラットン)



夏期には気温の低い朝か夕方おこなうのがよく、気温が二七度C以上のときは雛のいたみが多く、処理後の出血も多いといわれています。夜間おこなうのは鶏を捕えるにも、暑さをさける点からいってもよろしい。

(4) 断嘴の型

① 両嘴の切断

もっとも普通におこなわれる方法で、上嘴は嘴の先端から鼻孔までの1/3を切り取り、嘴の従軸に直角になるような切断

(3) 断嘴をおこなう時刻

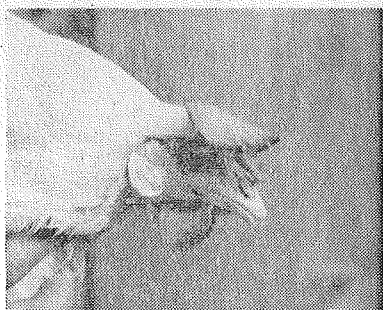
しかし、産卵の下降する季節、例えば産卵開始後六カ月以上経過したもので、しかも夏期には影響がでるのではないかと推察されます。



軽度の断嘴



下嘴の切断不足



適度の断嘴

面にすることとし、下嘴は1/2程度切断し
ます。

① 嘴の先端の切断

上嘴または両嘴の先端部だけを焼灼するも、とも軽い断嘴法で、おもに産卵鶏を対象にすることが多いやり方です。この程度の断嘴で当分の間カニバリズムの防止ができ、また飼料のこぼれを少なくすることが出来ます。

② 上嘴のみ切断

上嘴のみ切断して、下嘴は先端だけ焼灼する。成長すると下嘴が槍のように長くなり、採食が不便になるから給餌の量を増してやる必要があります。

(1) 嘴の切断は鶏に対して一時的ではありませんが、大きなストレスを与えますから、病気の疑いのある個体や群には実施しない方がよろしい。

(2) 鶏の移動時におこなうのは、鶏を捕える労力が省けて便利ですが、ストレスが重なって強過ぎ、発育のおくれをまねきやすいので、移動と断嘴を同時にこなわない方がよろしい。

(3) 断嘴機の刃の切れ味、刃と受棒のかみ合せがよいか点検すること。かみ合せが悪いと切れ味が悪いばかりか、切断面からの出血が多いので注意を要します。

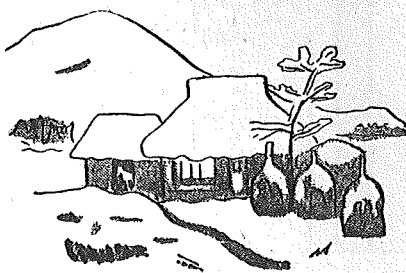
(4) 操作時に舌を切ったり、焼いたりしないよう注意が必要です。上嘴と下嘴は別々に切断することが必要で、そのため人さし指を鶏の口の中に入れて大きく開口させ、このとき舌を口の中に巻込むようにするとよろしい。

(5) 切断後は必ず止血の状態を確認して作業を終ること。

五 断嘴後の管理と断嘴の影響

断嘴後は切り口が給餌器、給水器の硬い底に触れずに採食、飲水ができるように給与量を多くする。また、断嘴後一〇日間くらい粒餌やペレットの給与はさけ、摂取の容易な粉餌がよろしい。

断嘴の発育、生存率、産卵などに対する影響については、いろいろな報告がありますが、そのほとんどは悪影響はないようです。飼料の摂取量についての岡崎種畜牧場における調査成績では、二二令



ツドローニッシュユC301後者はホワイトコーニッシュユW310を配布してあります。

FL364はがホワイトコーニッシュユW310、♀はホワイトロックF366が配布されてあります。フクダラインは、どのナンバーも三原交雑です。

肉用種であるフクダライン各ナンバーは、年間平均して生産されることを要求されます。夏・秋の種雛育成をお願いします。

F267は、ニューハンプシャーの純系H230とH237を相反交配したもので、フクダライン生産用として多数の組合員に配布するのみならず、プロライアマザー用として全国の種鶏・孵卵場からの需要が多いので、今年から、一部の組合員に純系二系統を配布し、F267用の種卵を生産して頂くことにしました。

ホワイトコーニッシュユ、レッドコーニッシュユ、ホワイトロックの同種組合せは主として輸出用ですから、輸出検査の関係上、組合の専養です。



今年の種鶏繁殖と育種方針及び組合わせ方法の改廃について

養鶏業界の要求に必ずするため、数年来種改良の目標を高水準にすると共に、種鶏の鶏種と系統を整理し、組合わせ実験を重ねて来ました。その成果が着々と挙がりまして、今年は育種目標をより高度にし、ニッキングテストを強化しました。また、この育種作業を効果的に推進するため種鶏舎七棟(二四三〇平方米)と、後代検定鶏舎一棟(三五〇平方米)を建設する計画を樹て、種鶏舎六棟は既に完工しました。

コンマーシャルチック生産

白色レグホーン

組合員に生産して頂く種卵は、すべてF109Cに統一しました。従って、今春配布した種卵はすべてF109とF105です。三原交配になるわけです。

ナンバーがつけられていない高級は、繁殖に供する時期以外に、純系異系統間を交配したものですから、研究所以外では生産されません。

三原雑種

大卵系と中卵多産系が固定されましたので、従来三原Nと称していたものを三原F364と改称し、三原Sといっていた後者を三原F365と改称しました。

大卵系中卵系ともはフクダレッドJ R200、♀は前者がF164後者はF109が配布されています。組合員飼育の種鶏中最も羽数の多い組合わせです。

ロックホーン

ハンブホーンは昨春までで廃止しましたが、ロックホーンは本年中で廃止します。いずれも数年来漸減方針で来たので、組合員に御迷惑はかからないと思えます。なおロックホーンは種卵のある限り孵化しますから御出荷下さい。

フクダライン

FL307、FL308は、共に♀はニューハンプシャーF267が配布され、♂は

ペラントストックの組合わせ

白色レグホーンの実用種F109Cの種鶏組合わせは上述の通りですが、F109C系は純系で、大卵多産性の固定度が高い優良系統で、♀F109と特に組合わせ能力が優秀です。

F109は、純系L101とL105を相反復選抜法による育種に成功した優良系統で育成率、生存率高く、特に中卵多産率では抜群です。F109C生産用種鶏♀系として使用されるのみならず、三原雑種の中卵系三原F366の♀系としても利用されています。F109とF109Cの両系統は異営産卵能力集合検定に出品し、共に好成績を挙げています。

F164は、純系L164とL110を相反交配で得たもので、純系の二系統は共に個体年産卵一九キロ以上のものを閉鎖群育種を行った大卵系統です。この♂にフクダレッド♂を交雑し、前者がレ